



(1,500円)



実用新案登録願

昭和50年7月7日

特許庁長官

殿

1 考案の名称

ハツシキツ 発電機構を有するおもちゃの銃

2 考案者

住所 実用新案登録出願人に同じ

氏名 同上

3 実用新案登録出願人

住所 神奈川県座間市くり原5289番地

氏名 アサタ テツシ
茂田 哲士

4 添付書類の目録

(1) 願書副本

(2) 明細書

(3) 図面

1 通

1 通

1 通

50-004535



方 式
審 査



明 細 書

1 考案の名称

発電機構を有するオモチャの銃

2 実用新案登録請求の範囲

引金の動作に連動して、マグネットとコイルを相対的に移動させる機構を有し、このマグネットとコイルとの相対運動により生じた誘起起電力を銃口に固定した発光素子（発光ダイオード、ネオンランプ等）に導くことにより、引金を引くと同時に前記発光素子を発光せしめたことを特徴とするオモチャの銃。

3 考案の詳細な説明

本考案はオモチャの銃に関するもので、銃内部に設けた発電機構により、銃口に固定した発光ダイオード、ネオンランプ等の発光素子を引金の動作に合わせて発光させるようにしたものである。

以下図に従って説明する。

図においてスプリング1に抗してレバ2を矢印3の方向に引金4の突起部とレバ2の凹部が一致するまで引く。引金4はスプリング5により一定方

向に張力を受けているのでレバ2はこれでロック状態となる。

この状態より引金4を引くとレバ2のロック状態は解除され、スプリング1の反発力によりレバ2は矢印6の方向に急激に移動する。

従ってレバ2の同軸延長上に配設されたマグネット7も銃身の回りに配設されたコイル8の中に急激に入り込むことになる。

よってこのコイル8の両端に接続された発光素子9はコイル8の両端に生じた誘起起電力により発光する。向、10はスプリング1のストッパ、11はマグネット7のストッパを兼用する反響板で効果音を発生する。12はレンズ群で発光素子9で生じた光を収束して遠方に飛ばす働きをする。

13は引金4の支点である。

以上の説明の通り本考案によれば、専用の電線をなくして電気的に発光素子を発光させることが可能である。また比較的質量の大きいマグネットを移動させ、それを反響板にぶつけるので手応えも実物のそれに近似させることが可能である。

コイルを分割して適当な間隔をあけて配設すれば
特定の周期を持たせて発光素子を発光させること
も可能である。

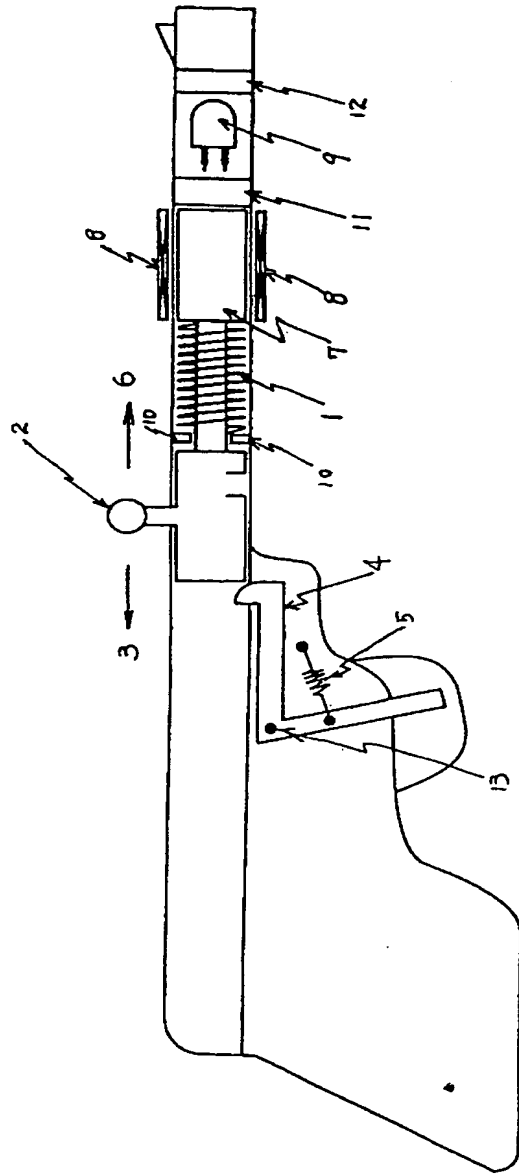
4 図面の簡単な説明

図は本考案によるオモチャの銃の一実施例を示す
概略図である。

実用新案登録出願人 氏名 浅田 哲 士

(3)





2591

実用新案登録出願人 氏名 浅田 哲士